

テレビ電話で手話通訳

明石・補正予算案 障害者向けに導入

明石市は31日、聴覚や視覚などの障害を持った人への行政サービス向上のため、手話による情報伝達を可能にするテレビ電話システム導入などを盛り込んだ補正予算案を発表した。4日開会の9月議会に提案する。

同市は今年4月、「手話言語・障害者コミュニケーション条例」を施行し、手話や音訳な

ど必要な手段の利用促進に努めており、今回の施策もその一環。このうち、テレビ電話システム(60万5000円)は、本庁舎2カ所(障害福祉課窓口と福祉総務課障害者施策担当)と総合福祉センター、大久保・魚住

・二見の各市民センターにモニターを設置し、本庁舎で勤務する手話通訳可能な職員が

対応する。音声を認識して文字変換し、タブレット端末に送信する音声同時通訳システム(50万1000円)も障害福祉課に設置する。このほか、視覚障害者向けに市政情報などの文書を点字対応(76万円)▽市後援行事への手話通訳者派遣助成(100万円)▽市立図書館の障害者向けサービス拡充(268万

円)▽災害ハザードマップの点訳(3万円)——も計上した。ハザードマップは年度内、他は年内の実施を予定している。

【駒崎秀樹】